

SDGs達成に向けた取組みチェックリスト

更新

事業者名: 株式会社 熊本日日新聞社

・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具体的な取組みを記載してください。
 ・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
 ・「予定」の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的な取組みを記載のうえ、提出してください。

(様式第2号)

分類	No.	チェック項目	基本	チャレ ン ジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																														
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17														
組織・公正な取引	1	【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内で共有、実践している。	●		・企業理念として「熊日は、新聞を軸に総合情報産業として新しい価値を創造し、地域の発展に寄与する」「熊日は、民主主義と世界平和の実現のために新聞の自由と独立を守り、常に視野を世界に開きながら地域に根ざした報道と言論を展開する」「熊日は、人と自然の共生を求め、こころ通う社会の実現を目指す」と掲げており、社内で共有している。さらに行動規範として「考えよ、挑戦せよ」と定めており、「よりよい郷土」を創るため、新聞社として考え、新しいことに挑むよう促している。															8	9														17	
	2	【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している。	●		・法令遵守の基礎となる「就業規則」を定め、社内掲示板でいつでも確認できるようにしている。労働関係法をはじめとする定期的な研修も実施し、従業員を啓発している。 ・内部通報制度を設置し、コンプライアンス違反の防止や早期発見に取り組んでいる。																														16	
	3	【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している。	●		・独占禁止法遵守など、グループ会社を含め、取引先と公正な取引を行うよう常に促しており、消費税の転嫁や業務委託費の不当な値引きなど優越的地位の乱用にならぬよう適宜チェックしている。																			10											16	
	4	【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当や専門部署などの体制を整備している。	●		・編集局読者・新聞学習センターで、電話、メールを中心に新聞紙面をはじめ、自社に対するさまざまな反応や注文、指摘を聞き取り、各部署に解決を促している。																														16	
	5	【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる。	●		・熊日データベース利用規定を設け、自社の記事、写真など著作物について適正に利用されるよう定めている。他者の著作物についても法律に基づいた利用をするよう促している。											8.2	8.3	9																16		
	6	【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している。	●		・個人情報についての基本方針、個人情報取扱規程を定め、担当部署で適法、適切に管理するとともに、方針・規程は社内掲示板でいつでも確認できるようにしている。各部署には個人情報管理責任者を置いている。																														16	
	7	【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー(※)との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している。(※利害関係者:消費者、投資家等及び社会全体)	●		・会社法に基づき、定時株主総会を毎年6月に開催し、事業内容を報告するとともに、紙面上の決算公告で公表している。日常的な活動では、読者・新聞学習センターで読者や市民からの意見について把握し、担当部署を通じて適切に対応している。																														16	17
	8	【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応(ハラスメント・汚職・贈収賄防止)について認識を共有し、共に取り組んでいる。	●		・新聞制作工程の上流から下流に至るまで、用紙やインキの各メーカー、損紙や刷版の引取会社など各パートナーと環境や倫理面を共有して事業にあたる。環境に配慮した原材料の選定、リサイクルシステムへの協力、公正な外部発注などを意識している。					5						8		10		12	13	14	15	16	17											
	9	【災害や事故への備え】 ・地震や水害などの自然災害や事故などに備え事業継続計画(BCP)を策定し、訓練や見直しを行っている。	●		・「緊急事態対応マニュアル」を策定し、災害対策本部の設置や指示系統、各局における初動などを定め、社内掲示板にアップしている。印刷局ではBCPチェックシートを設けている。また、設備的には非常用発電機やUPS(無停電電源装置)も導入しており、非常用電源による新聞印刷テストも行っている。												9		11							13.1								16	17	
	10	【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている	●		・熊本市、熊本商工会議所、熊本県商工会連合会、県事業承継・引継ぎ支援センターなどと連携し、官民連携で事業承継を支援する協定を締結している。承継のメリットや関連する支援策の認知度アップを目指している。												8	9																	17	
	11	【公正な貿易】 ・フェアトレード商品の調達に取り組んでいる。	●							1	2								8									12	13	14	15	16	17			
労働・人権	12	【差別の禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出自などによる差別や各種ハラスメントを防ぐ体制を整備され、社内でも差別や人権侵害がないことを確認している。	●		・2017年に、ハラスメント行為を許さない姿勢を明確にする社長名の文書を出したほか、ハラスメント防止規定を設けた。社内掲示板で全社員が共有できるようにしている。 ・水俣病・ハンセン病をはじめとした報道を通じ、差別がない社会を推進している。						4.3	4.4	4.5	5.1	5.2	5.5		8.5	8.7	8.8													16.1	16.2	16.7	
	13	【労働安全衛生】 ・業務中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる。	●		・社内に「工場安全委員会」を設置し、業務中の事故防止など安全な労働環境の整備に取り組んでいる。								3					8.8																		
	14	【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している。	●		・従業員(正社員、嘱託、再雇用嘱託)の公正な待遇を行っている。									5.5					8.5															10.2	10.3	
	15	【ワークライフバランス】 ・働き方の見直し等により、過度な長時間労働を防止し、家庭と仕事の両立を図るためのワークライフバランスを推進している。	●		・ワークライフバランスを推進するため、2019年4月から専門業務型裁量労働制とフレックスタイム制を導入し、柔軟な働き方を推進している。 ・最長11日間のリフレッシュ休暇を設け、従業員のプライベートの充実を図っている。								3		5.5				8.5	8.8											10.3					
	16	【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している。	●		・新入社員、部次長昇進時、部長昇進時など階層ごとに研修を実施し、職責に応じた能力開発に取り組んでいる。 ・社業に役立つ資格取得などの費用を補助する「キャリアアップ支援制度」を設け、社員の自己研鑽を支援している。									4	5.5				8	9																
	17	【健康経営】 ・従業員が心身ともに健康を維持できるよう対策を講じ、生産性の向上に取り組んでいる。	●		・社内に「健康管理委員会」を設け、毎月産業医を交えた会合を開き意見交換している。 ・毎月の社員の労働時間を把握し、所属長に注意を促すなどして長時間労働の抑制に取り組んでいる。 ・外部カウンセラーのカウンセリングを受けられる体制を整備している。 ・健康診断、インフルエンザ予防接種の経費補助を行っている。									3					8																17	
	18	【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材(女性、外国人、障がい者、高齢者等)が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる。	●		・多様な人材が十分に活躍できる制度の整備に取り組んでいる。 ・障害者の法定雇用率をクリアしている。											4.4	5.1	5.5		8.5															16.7	
	19	【新しい生活様式への対応】 ・新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策としても有効なテレワークや時差出勤、ウェブ会議等を導入している。	●		・リモートワーク支援として社用スマートフォンのデザリング機能を使いVPNでの社内ネットワーク接続に対応している。テレワーク、時差出勤を部署の特性に応じ導入している。												3			8	9.1		11	12												
	20	【デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進】 ・ICTやAIを活用したデジタル化やオンライン化等のDXの推進により業務の効率化やビジネスモデルの変革に取り組んでいる。	●		・熊日電子版・紙面ビューアーを通じた新聞とデジタルの融合や、電子版単体プランなどデジタル商品の展開によってビジネスモデルの変革を進めている。 ・社内ではRPAによる紙面作成や事務処理を行い、業務効率化を図っている。															8	9.1		11	12												
	21	【プライト企業】 ・プライト企業に認定されている。	●																	8	9														12	

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																			
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17			
環境	22	【環境汚染予防】 ・廃棄物や有害化学物質の適切な管理、及び処理に取り組んでいる。	●		・新聞製作に使用する刷版(CTP版)は現像廃液を排出しない無処理版を使用している。			3.9		6.3					11.6	12.4		14.1	15.1						
	23	【エネルギー】 ・電力やガソリンなど、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。	●		・簡易計算シート等を用いてエネルギー使用量の把握に取り組んでいる。 ・蛍光灯照明からLED照明へ順次更新し電力量の削減に取り組んでいる。 ・設備更新時の高効率機器の導入などにより、規定のエネルギー使用量を下回ったため、2024年6月24日、特定事業者の取り消し申請を行い受理された。							7.3					13								
	24	【温暖化対策】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。	●		・簡易計算シート等を用いてCO2排出量の把握に取り組んでいる。 ・太陽熱温水器を設置してガス使用量を削減し、CO2排出を抑制している。 ・高効率の空調機へ順次更新し、電力量を削減し、CO2排出を抑制している。 ・クールビズ、ウォームビズに取り組んでいる。		2.4					7.2 7.3 7.a			12.4	13	14	15							
	25	【生物多様性】 ・自社活動が環境(生物多様性や生態系等)に悪影響を及ぼさないように配慮している。	●		・環境に配慮した製品を購入して新聞を製作している。 ・井水を空気圧縮機の冷却水として使用した後、トイレの排水に再利用している。					6.6								14	15						
	26	【効率的な資源利用】 ・ごみを減らし、資源を有効的に繰り返し使うため、発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)に取り組んでいる。	●		・ペーパーレス化、裏紙の利用を促進している。 ・新聞製作に使用する刷版(CTP版)の再利用をしている。 ・社内で行えるごみの分別回収に取り組んでいる。									9.4			12.2 12.4 12.5		14.1	15					
	27	【水の管理】 ・熊本の水資源の質と量の保全に取り組んでいる。	●		・事業所内設備に節水器具(コマ)を使用している。 ・PH(ペーハー)中和装置を導入し、適正に処理したものを排水している。		2.4				6.1 6.3 6.4 6.6 6.b					11.5			14.1 14.2 14.3	15			17		
	28	【環境に配慮した製品等】 ・環境に配慮した製品の購入や製品の開発・製造に取り組んでいる(グリーン購入、リサイクル製品認証等)。	●		・新聞製作に使用する刷版(CTP版)をメーカーに回収してもらい、リサイクルに取り組んでいる。 ・新聞用紙は再生紙(古紙率70%以上)を使用している。									9.4			12.4 12.5	13	14	15					
	29	【食品ロスの削減】 食品ロスの削減に取り組んでいる。	●		・肥後銀行と連携し、食品ロスを含む「地域のロス解消事業」の実証実験を展開し、開発したLINEアプリを通じて、パンなど賞味期限が迫る食品を割安で販売している。熊本市中心部で普及啓発イベントも開催している。	1	2				6.4							12.3		14	15			17	
	30	【緑の保全管理】 ・壁面緑化や植栽など緑の創出と保全、管理に取り組んでいる。	●		・阿蘇草原再生キャンペーンを展開し、募金活動や紙面特集、シンポジウムを行い、阿蘇の草原の保全・再生に取り組んでいる。											11.6 11.7		13.1 13.3		15				17	
	31	【エネルギー効率の見直し・再生可能エネルギーの利用】 ・高効率機器の導入等によるエネルギー使用率の改善または再生可能エネルギーの利用や供給に取り組んでいる。	●		・太陽光発電や太陽熱温水器を本社や本社や所有地に設置し、社内のエネルギー利用や売電を行っている。								7.1 7.2 7.3 7.a	9.4		11.5		13.1 13.3							
	32	【森林資源の循環利用に向けた取組み】 ・「伐って、使って、植えて、育てる」の持続的な森林利用への取組みを推進している。	●		・阿蘇草原再生キャンペーンを展開し、持続的な草原利用の取組みを推進している。						6			9.4		11.3 11.4 11.5	12.2	13		15					
	33	【植林等の取組み】 ・植林等の森林整備活動に取り組んでいる。	●								6.1 6.3 6.6					11.3 11.4 11.5	12.2	13		15					
	34	【海洋ごみ】 ・環境中で分解しにくいプラスチックの使用削減等、海洋ごみ、海洋汚染の防止削減に貢献している。	●														12.2 12.5		14						
	35	【環境に配慮した交通手段】 ・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気自動車や水素自動車などの環境にやさしい自動車の使用を促進している。	●											9.4		11.2		13.1 13.3							
	36	【2050年CO2排出量実質ゼロへの取組み】 ・2050年CO2排出実質ゼロを目指し、計画的にCO2削減に取り組んでいる。	●										7.1 7.2 7.3 7.a	9.4		11.6 11.a	12.8	13							17.2

分類	No.	チェック項目	基本	チャレ ン ジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																		
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
製品・サービス	37	【製品・サービスの安全性と品質】 ・製品・サービスの安全性や品質を確保する仕組みを構築している。	●		・読者からの意見、提言を受け付ける読者・新聞学習センターを設置し、紙面づくりに生かしている。			3.9						9			12.4							
	38	【ユニバーサルデザイン】 ・障がい者、高齢者に特定せず、誰もが利用しやすいサービス提供や環境整備を行っている。	●		・社屋1階部分にスロープを設置するなど段差解消に取り組んでいる。 ・多目的トイレを設けている。来訪者用の車いすを用意している。									9.1	10	11.7							17	
	39	【地域資源】 ・地産地消を推進し、熊本県産の原材料を優先的に使用している。		●	・紙面に「地産地消」のコーナーを設け、県内各地の農産品や新商品を紹介し、地産地消を推進している。		2.3 2.4					7.3	8	9		11.a	12.3	13	14	15			17	
	40	【木質化の取組み】 ・自社の執務室等の天井や床、壁等の内装や外壁等に木材を使用し、木質化を推進している。		●								7					12.2	13.1		15				
	41	【社会課題解決】 ・社会課題を解決するための製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる。		●	・報道機関として、地域の社会課題を日常的に取り上げ、課題解決に取り組んでいる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
	42	【攻めの農林水産業】 ・地域における産学官連携等による新たな品種開発を促進するなど、地域レベルで農林水産業の生産能力向上に努めている。		●	・熊本県と農業コンクールを共催で実施しており、顕著な取組みを表彰、報道し、県内農業のレベルアップを推進している。		2.3 2.4						8.2	9.2 9.4		11.a	12.2		14	15			17	
持続可能な社会・地方創生	43	【地域への参画】 ・自治活動や福祉活動、防災活動や寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。	●		・2020年7月の熊本豪雨を受け、従業員がボランティアに赴いた際に申請すれば出勤扱いとする規定を設けて、ボランティアへの積極的な参加を後押ししている。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
	44	【防災、減災、レジリエンス(自助)】 ・過去の地震や水害などの災害を教訓に、事業への被害を防止・軽減するため、ハザードマップを確認し、避難行動計画や事前防災対策を進めている。	●		・定期的に防火防災訓練、水防訓練を実施し、避難経路など災害発生時の対応を確認している。 ・緊急時対応マニュアルを策定、必要に応じて見直しを進めている。 ・社屋内に非常食や防災用品を常備している。 ・大規模災害時の事業継続に必要な非常用発電機を設置している。				4							11.5		13.1			16			
	45	【防災、減災、レジリエンス(共助)】 ・地域防災の担い手としての認識を持ち、防災士、水防団員、救助救急等の必要な技能を持つ社員を育成したり、地域消防団の活動に参加している。		●	・社員による救急救命活動を推奨、研修や勉強会を実施し、資格取得や社外での活動を支援している。社内では消防団を組織し、定期的な訓練を行っている。	1.5		3	4						10.2	11.5		13.1				16	17	
	46	【防災関連商品の開発・販売】 ・防災関連商品の開発・販売を促進している。		●	・防災特集を紙面に掲載し、防災関連商品の開発・販売を促進している。熊本地震、熊本豪雨の節目にも特集を展開している。									9		11	12	13.1						
	47	【SDGsの普及啓発】 ・環境問題や人権問題をはじめとした社会課題の解決に向け、SDGsの普及啓発や教育機会の提供を行っている。		●	・SDGsをテーマにした年間企画を展開し、紙面特集や連載、SDGs専用サイトなどでSDGsの普及啓発や教育機会の提供を行っている。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
	48	【インターンシップ等の受入れ】 ・職場体験、インターンシップの受入れ、職場関連授業の実施など、地域の児童や学生に対し、職業の学びの場を提供している。		●	・大学生のインターンシップや中学生のナイスライなどの職場体験を実施している。				4				8.6		10.2								17	
	49	【若者の地元定着等】 ・若者の県内就職を促進する取組みを行っている。		●	・「看護師ガイダンス」など県内企業や医療機関に就職するためのイベントや、学生と県内企業との交流会の開催を通して、若者の県内就職を促進している。				4.4				8.5 8.6										17	
	50	【農林水産業の担い手確保】 ・子どもに対する農林水産業教育を行うなど、地域における農林水産業従事者の確保に取り組んでいる。		●	・朝刊の農林水産面や農業コンクールで活躍する若手農業家を紹介し、地域における農業従事者の確保をサポートしている。		2		4.3 4.4 4.5				8.6		10.2		12	13	14	15			17	